

芦子地区



【地区の自然環境概要】

芦子地区は、森、里及び街の要素を持つ地区です。

西部には、豊かな自然環境の中で遊ぶことができる「小田原こどもの森公園わんぱくらんど」や「辻村植物公園」があり、周囲にはスギ・ヒノキの人工林が広がり、森林環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

中央部はミカン畑などの果樹園や耕作地が広がり、丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

中央部から東部にかけては徐々に標高が下がり、住宅地や官庁街となり、南東部で小田原駅に隣接します。周辺は、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

山地森林から丘陵地の環境が主に広がり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。また、市街地の中にある緑や河川・海岸などの水辺環境は動植物にとっての大切な生育・生息の場です。

- 風祭から久野では主に人工林が分布しています。イノデやクロモジ、アオキ等の植物、ムササビ等の哺乳類、サンコウチョウ（絶滅危惧種）やヤマガラ等の鳥類、タカチホヘビ等の爬虫類、トゲナフシヤアカハナカミキリ等の昆虫類などが見られ、丘陵地から山地の樹林を特徴づける種が生息しています。¹
- 城山は市街地や社寺林が分布しています。イノデやアラカシ、ケヤキ等の植物、キジバトやヒヨドリ等の鳥類、ニホンヤモリ等の爬虫類、アオマツムシやトウキョウヒメハンミョウ等の昆虫類が見られ、緑の多い住宅地を特徴づける種が生育・生息しています。²
- 山王川下流では、ウグイやカマツカ、スミウキゴリ等の河川中下流域でよく見られる魚類のほか、緩い流れを好むミナメダカ（絶滅危惧種）も生息しています。
- 坊所川上流では、サツキマス（アマゴ）などの溪流でよく見られる魚類が生息しています。³また、ハマシギ（絶滅危惧種）やメダイチドリ（国際希少野生動物種）、ヤマセミ等の鳥類、セアカオサムシ等の昆虫類などが見られ、溪流環境や河川敷などの水辺環境を特徴づける種が生息しています。⁴

¹ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

² 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

³ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁴ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果



ヤマガラ

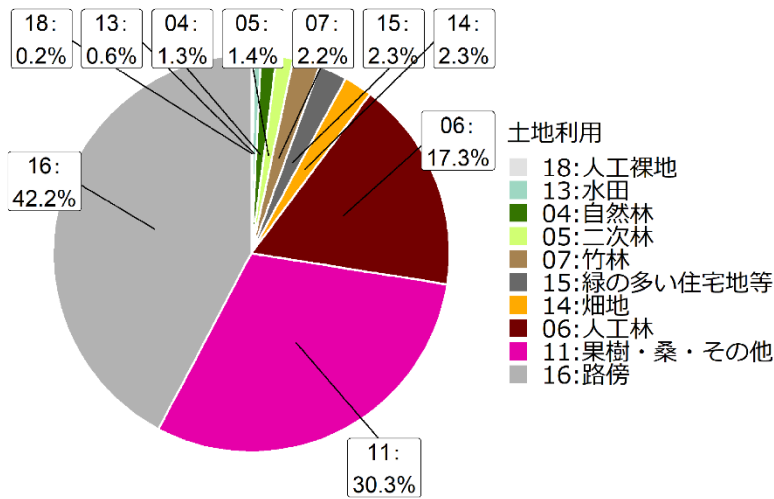


タカチホヘビ

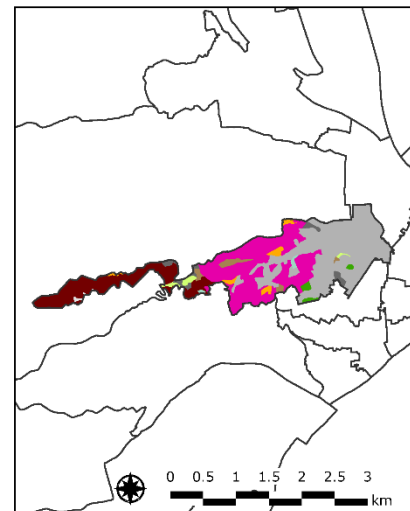


メダイチドリ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、西部は主に人工林が広がり、部分的に二次林や自然林が見られ、森林環境が土地利用の約 2 割を占めています。中央部は主に果樹園が広がり、部分的に畑地や竹林が見られる里地里山環境が約 3 割を占めています。東部は主に路傍が広がっています。⁵



芦子地区の土地利用割合



芦子地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給や生活環境の調整など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：起伏に富んだ地形を生かした豊かな自然環境の中で、子供たちが体を動かして自由にのびのびと遊ぶことができる「小田原こどもの森公園わんぱくらんど」や、梅林や外国産樹木等を鑑賞することができる「辻村植物公園」があります。「小田原こどもの森公園わんぱくらんど」は、クヌギやコナラなどの植樹林の樹木やカブトムシやクワガタムシなどの昆虫類、草原の野草や野鳥観察にも適しています。⁶
- **自然観賞の場**：小田原市庁舎前の雑木林は、落葉樹主体に整備されています。市庁舎に隣接した「けやき通り」のけやき並木や荻窪の「市方神社」の社叢など、荻窪は市街地でありながら緑や季節の移ろいを楽しめる場所です。⁷

⁵ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁶ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所、平成 9 年（1997 年））

⁷ 出典：小田原ふるさとの原風景百選（小田原市環境部環境政策課、平成 19 年（2007 年））

- **文学ゆかりの地**：地区内を通る「荻窪用水」は、江戸時代に小田原藩の水田事業として開かれました。箱根町塔之沢付近で早川の水をせき止め、そこから山間を抜け、荻窪へとつながる全長 10.3km の用水路です。現在も箱根町湯本から小田原市荻窪までの間を流れ、「疏水百選」や「日本土木学会 推奨土木遺産」にも認定されています。また、童謡「めだかの学校」は、童話作家茶木滋の作詞であり、息子と芋の買い出しの途中、荻窪の小川付近で交わした会話を基にして作ったと言われています。⁸
- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。

～食のつながり～

- **果樹**：中央部はミカン畑などの果樹園が広がり、食を供給しています。
- **農作物**：畑地は市内でも上位⁹の面積を保有し、様々な農作物を供給しています。
- **特用林産物**：生シイタケやヒラタケ、タケノコなどの特用林産物が生産されています。¹⁰

～生活環境とのつながり～

- **大気の調整**：植物には光合成を行う際に二酸化炭素（CO₂）と併せて大気汚染物質を吸収する機能があります。工場等から発生する汚染物質が大気中で変化した二酸化窒素（NO₂）の吸収量を評価¹¹すると、市内で2位となります。

【地区で見られる特徴的な自然】

天然記念物の指定や巨樹・巨木林に選定された樹木等、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **巨樹・巨木林**：「池上稲荷神社」「大聖院」「大稲荷神社」に生育する次表の樹木は、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査¹²で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
池上稲荷神社	イチヨウ	20	370	平成12年（2000年）
	イチヨウ	21	345	平成12年（2000年）
大聖院	イチヨウ	18	350	平成12年（2000年）
大稲荷神社	クロマツ	20	350	平成12年（2000年）
	クスノキ	19	420	平成12年（2000年）

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年（2001年））

⁸ 出典：小田原市 HP 観光 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/walking/ogikubo.html>

⁹ 出典：農林業センサス 2015

¹⁰ 出典：神奈川県西地域県西総合センター森林保全課資料

¹¹ 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

¹² 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査

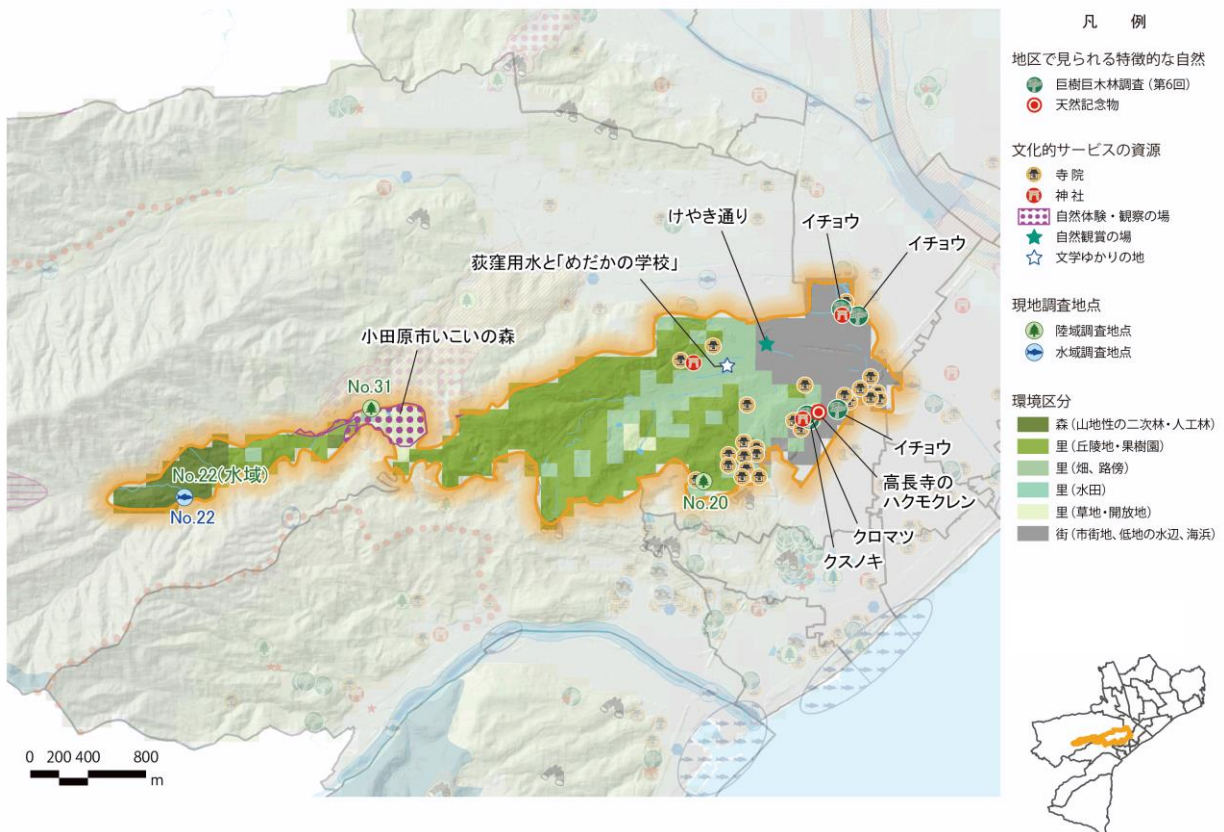
- **天然記念物**：「高長寺」のハクモクレンは、天然記念物に指定されています。

天然記念物概要

名称	指定	指定年月日	所在地	概説
高長寺のハクモクレン	市	平成4年（1992年） 11月2日	高長寺	ハクモクレンは、中国中部地方の原産で、我が国への渡来は貝原益軒の「大和本草」（宝永5年（1708年）刊行）にも記載されているところから相当古い時代であったと考えられる。この木は、市内では最大級の名木。3月から4月にかけて、樹冠一杯に大型の白い花を無数につけ、すばらしい景観を呈す。

※出典：小田原市 HP「天然記念物」をもとに作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>

- **重要地点**：平成29年（2017年）～30年（2018年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、現地調査結果を踏まえ重要種が多いと評価された現地調査地点「陸域 No.27（水之尾毘沙門天とその周辺）」、及び重要種が多くかつ多様性が高いと評価された現地調査地点「陸域 No.31（いこいの森及びフォレストアドベンチャー）」を将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。



芦子地区の自然環境マップ